

史跡

大内氏館跡 池泉庭園

山口市教育委員会



発掘調査中の池泉庭園（2号庭園・31次調査）

大内氏館の庭園跡

中世の周防山口を拠点として活躍した大内氏の館は、山口市大殿大路の地にありました。大内氏が領国経営を行う守護所としての政治的拠点であり、経済・文化の中心でもありました。昭和34年（1959）、館跡は大内氏遺跡のひとつとして国の史跡に指定され、昭和53年（1978）から発掘調査が行われています。

館跡では、室町時代に作られた庭園の跡が少なくとも3か所で確認されています。現存する中世庭園は、後世の改修によって元の姿を留めない例が多いのに対し、大内氏館跡のような発掘庭園は、当時の庭園様式をうかがい知ることができ、きわめて重要です。

史跡指定地の南東部に位置する池泉庭園（2号庭園）は、館内の庭園遺構としては最大規模を誇り、平成4・5年度（1992-3）の第13・14発掘調査で発見され、平成18年度（2006）に再発掘されました。



a. 石積護岸 (31次調査)



b. 導水施設 (27次調査)



c. 石基礎建物 (27次調査)



d. 石組井戸 (3次調査)



e. 井戸出土の金箔土師器皿 (3次調査)

池泉庭園 (2号庭園)

調査の概要

1400年代おわり頃に作庭され、2度以上にわたる改修を経た後、大内氏が滅亡する1500年代中頃に廃絶したことが分かっています。

南北39m、東西20m(約490㎡)で、ヒョウタン形の池の中ほどに中島が浮かび、東岸の石組水路から導水していました。排水施設や池底の防水施設は発見されていません。

池の西岸が直線的となることから、庭園を眺める会所などの建物が存在したのかもしれませんが。また、南東岸で発見された石基礎建物は、池泉庭園の改修時に建てられており、庭を鑑賞する施設のひとつだった可能性があります。

池泉の南西岸で発見された石組井戸からは、金箔を貼った京都系土師器皿が出土しました。

整備の概要

発掘された遺構を埋め戻した後に嵩上げをし、水をたたえた庭園として復元整備しました。整備対象としたのは、1500年代前半～中頃の様子です。



a. 石組下発見の1号庭園（1次調査）

1号庭園

龍福寺の庫裏改修に伴う昭和53年度（1978）の調査で、方形石組の下から発見されました。池泉式か枯山水式かは現時点でははっきりしませんが、護岸石の内側に平玉石を敷き並べ、立石も認められます。

作庭された年代は分かりませんが、1400年代の終わりころには廃絶しており、池泉庭園（2号庭園）よりも古い時期の庭園遺構と考えられます。調査後に埋め戻され、現在は見学することができません。



b. 1号庭園の立石（7次調査）



c. 1号庭園の位置



d. 整備後の3号庭園

3号庭園

史跡北西部で発見された枯山水庭園です。平成9・10年度（1997-8）に発見され、平成14・15年度（2002-3）に追加調査されました。

滝から流れ落ちた水が滝壺にたまり、礎石建物を取り巻くように流れていく様を石組や平玉石だけで表現しています。1500年代前半に作られ、1500年代中頃に礎石建物の火災とともに廃絶しました。

平成18年度（2006）に復元整備が行われました。



e. 調査中の3号庭園（25次）



f. 3号庭園の位置

大内氏遺跡シンボルマーク

このマークは、史跡大内氏遺跡^{つきたり}附凌雲寺跡のひとつ凌雲寺跡から出土した軒平瓦^{のまひらがわら}の文様をもとに作成したものです。この瓦の時期は1500年代前半のもので、大内氏遺跡最盛期にあたることから、大内氏遺跡のシンボルマークのモデルとなりました。



大内氏遺跡シンボルマーク



凌雲寺跡出土瓦の菱文